令和８年度　第２回米子市子どもの読書活動推進ビジョン検討委員会　会議概要

○日　時　令和８年９月１７日（木）午前１０時から正午まで
○場　所　米子市立図書館　２階　多目的研修室
○出席者　委員
渡邉眞子（会長）、坪倉寿樹（副会長）、賴田敬子、山田知子、河津ルミ子、草分紀吉、
金本由香、松嶋和広、笹鹿啓子（敬称略）
事務局・担当課
生涯学習課：田中課長、松永課長補佐、前田主任、新見主任
市立図書館：永瀬図書館長、佐藤図書課長
こども政策課：宮中担当課長補佐
学校教育課：三代担当課長補佐
こども相談課：荒木主事
こども施設課：前畑課長補佐、松原保育リーダー、竹内係長、山田主任
児童文化センター：清水副館長
○欠席者　隠樹佐与志（敬称略）
○傍聴者　なし
○報道関係　なし

【検討会の概要】
１　開会

２　会長あいさつ

３　議事
米子市子どもの読書活動推進ビジョン（第５次計画）素案について
資料３に基づいて説明。
○子どもの読書活動を取り巻く状況：子どもの読書離れの傾向を示す根拠として、全国学力・学習状況調査の読書時間に関する質問に対する回答を掲載。
○スローガン：第４次計画から使用している「本が大好き、米子の子ども」というスローガンを第５次計画でも引き続き使用する。
○基本方針：取組の実施場所（家庭・地域・学校等）と内容（環境の整備・充実、人材の育成、理解・普及啓発）の分類で取組を整理し、計画に記載している。
○米子市の取組図：米子市の取組を示す図を、第４次計画に記載していたものから、家庭を中心として地域と学校等が連携して支援していくということを示した形に変更する。
○数値目標：少子化による子どもの数の減少を考慮し、貸出冊数の合計ではなく、子ども一人当たりの貸出冊数を指標とする。また、子どもが利用する機会の多い学校図書館での貸出冊数を指標に加える。
委員からの主な意見・提案（意見交換）
第５次計画の作成に向けて、各委員から現場の具体的な状況や、今後の取組に向けた多くの意見が交わされた。
（主な意見）
・「本が大好き、米子の子ども」というスローガンを達成するための計画を作成するとともに、こ

の計画を実際に子育て中の保護者に届けるための工夫（事例紹介を掲載したリーフレットの配布など）が必要である。
・６か月児健診（ブックスタート）など多くの保護者が参加する機会を捉えて読書の大切さを啓発すると良いのではないか。その際に、読書に関するイベントなどの情報を一度に把握できる情報サイトがあれば、保護者が読書活動に参加しやすくなると思う。
・現在の「本が大好き、米子の子ども」というスローガンについて、より伝わりやすいものに変更した方が良いと思う。
・子育て中の保護者にはこの計画を読む余裕がない。漫画などを使った分かりやすいリーフレットを使った広報をすれば保護者も読みやすい。
・読書に限らず、子育てに関する施設やイベント、サークルなどの情報が一つにまとまった情報サイトがあれば、子育てに疲れている保護者も助かると思う。
・幼児期から YouTube に触れる機会が増えており、保護者の代わりに絵本の読み聞かせをする動画を活用することもあるようだ。そういった現状の中で、本に親しんでもらう環境をどう作っていくかが課題である。
・部活動や進路等で、小学生の頃より高校生の読書時間が減るのは自然なことだと思う。大人になり必要な場面で読書ができるのであれば、高校生の読書時間を無理に増やそうとしなくても良いのでは。読書に限らず子どもが好きなものを選べるような環境を提供したいと思う。
・啓発活動について、例えばホームページであれば自分から情報を探した人にしか届かない。外へ打って出る啓発が大事だと思う。
・頻度は様々だが、どの学校でも朝読書に取り組んでいる。何を読めば良いか分からないという子もいるため、おすすめの本を提案するアプリを作ってもらった。その他にも司書教諭がイベントや本の紹介、ブックトークなどを実施している。
・以前高校で朝読書を実施した際は、読書習慣の定着とともに、生徒の落ち着きや遅刻者の減少という効果があった。現在の高校生は、長い動画は見ずにショート動画やインスタグラムを見るなど、結果を早く追い求めるため、長い書物よりも短いものを読む傾向がある。今後社会で必要とされる人材となるためには、論文を読み込むなどの専門的な学びが必要であり、読書の重要性は高まっている。
・計画ができた際には、新聞やテレビなどのメディアを使って広報してはどうか。

４　連絡事項

今後のスケジュールを共有。素案の概要版を作成の上、パブリックコメントを募集することとした。次回の第３回検討委員会は１２月開催予定。

５　閉会